小山　典男　議員（自民新政会）

マイナンバーカードの普及と利活用について

町長 適切な対応を図るよう指示している

質問　マイナンバー制度が、平成28年1月より始まり、3年が経過した。そこで次の3点について、町長の所見を伺う。

問①　町における交付枚数及び交付率は。

町長　平成31年4月1日時点での交付枚数は3175枚、交付率は9・5％。

問②　周知・広報をどのように進めてきたか。

町長　広報みずほに特集記事を掲載し、ホームページには申請手続きを掲載して取得勧奨に努めている。また、住民課窓口では、リーフレットなどを設置し、PRに努めている。

問③　今後のマイナンバーカードの利活用について。

町長　国は今年度「マイナンバーカードの普及とマイナンバーの利活用の促進に関する方針」を決定した。町では、関連分部署などで情報を共有し、適切な対応を図るように指示している。

こんな質問もありました

町内の危険ブロック塀への対策を

町長　通学路上の民有地内22カ所の塀に注意個所があり、学校と情報を共有している。

聖火到着を祝うイベント「セレブレーション」実施について

町長　町民にとって素晴らしい思い出として記憶されるように鋭意進めていく。

内閣府HPより

マイナンバーカードのパンフレットの一つ。内閣府のHPには様々な普及啓発のパンフレットやチラシなどが掲載されている。

小川　龍美　議員（公明党）

買い物弱者対策について問う

町長 地域の実情に合うよう福祉バスの見直しを開始する

質問　近年、大型店の郊外進出とともに小規模店舗の撤退・閉店が進行する中、交通網の弱体化も加わり、自動車などの交通手段を持たない人や年齢的に遠出が難しい高齢者などのいわゆる買い物弱者が増え、その対策が必要となっている。買い物は高齢者の外出機会の多くを占めており、買い物に行けないことにより外出頻度が低下し、個人の生きがいに影響を与える可能性もある。町は買い物弱者支援に取り組むべきと考えるが、所見を伺う。

町長　現在、民間事業者の移動販売も展開されており、利用希望者の相談に対し、事業者とのマッチングの支援をしている。これに加え、宅配、ボランティア活動などとも組み合わせて支援していかなければならない。今後、免許証の返納増加など、高齢者の活動範囲は限られていくことが予測されるため、各種移動手段の充実に努めていきたい。現在、運行している福祉バスについて、地域の実情に合うよう見直しを開始するところである。

こんな質問もありました

車の急発進防止装置に町も補助を

町長　現時点で補助をすぐに実行する考えはないが、検討は必要だと思っている。

気軽に立ち寄ることができるスーパーマーケットや様々な商店での買い物は住民の楽しみの一つでもある。

大坪　国広　議員（日本共産党）

高齢者の聞こえのバリアフリーについて

町長 都に補聴器購入の補助要望を伝えたい

質問　65歳以上の高齢者の半数に難聴があると推計される。難聴になると、家族や社会からも孤立しやすく、ひきこもりや認知症になるリスクが高まります。そこで次の3点について町長の所見を伺う。

問①　聴力低下がみられる方へ早期からの補聴器使用の重要性についての認識は。

町長　適正に補聴器を使用することは大切であると認識しているが、この判定には耳鼻科の医師による客観的な診療も大切であると認識している。

問②　加齢性の難聴を早期発見できるよう検診窓口を設置すべき。

町長　窓口設置の予定はない。

問③　高額な補聴器の購入・調整費用の支援を東京都に求め、町としても取り組むべきと考えるが。

町長　加齢に応じた多機能・高性能な補聴器はとても高額であり、購入費用のほか、一人ひとりの症状や耳の形状に合わせた調整が必要であると認識している。都には、補聴器購入の補助要望があることを伝えたい。

こんな質問もありました

プラスチックごみ削減の取り組みを

町長　プラスチックのリサイクルを図るとともに、代替製品への移行も視野に普及に努めたい。

小型高性能化している補聴器

森　亘　議員（自民新政会）

不登校生徒の進学の可能性を広げる成績評価制度を

教育長 不登校経験者を主に受け入れる都立高校もある

質問　NHKの調査によると、現在、中学生の5人に1人が不登校、隠れ不登校であるとのことである。不登校の要因は、内的要因、外的要因もあるが、特に、進学など将来の目標の喪失に起因しているものがあることに注視するべきと考える。そこで次の3点を教育長に伺う。

問①　現在、各町立学校の不登校、隠れ不登校の人数、および要因は。

教育長　30年度、不登校は小学校8人、中学校40人。隠れ不登校に対しての人数は把握していないが、教室に入れず別室で過ごしている児童・生徒もいる。要因は無気力、不安感、家庭の状況、友人関係などが挙げられる。

問②　不登校児童・生徒の進学状況は。

教育長　中学生はほぼ高等学校に進学している。

問③　不登校生徒の進学の可能性を広げる成績の評価方法にすべきでは。

教育長　長期欠席の場合、評価しないことが認められている。現在、入学選抜が多様化し、都立高等学校でも不登校生徒を主に受け入れる進学先もある。

こんな質問もありました

長期総合計画策定にフューチャーデザインの手法導入を

町長　しっかり研究させていただきたい。

適応指導教室「いぶき」の教室の様子

フューチャーデザインとは

今の子供たちが大人になった時の瑞穂町を想像し、まちづくり計画を作成する手法。